

交付金対象事業名称			事業目的・概要									
1	持続可能な農村エコシステム構築事業		交通分野においては、農村エリアの交通に課題があるため、共助型地域交通物流システムを導入し、ドライバー不足を解消しヒト・モノの移動を降雪時期を含め最適化を図る。農業分野においては、飼料の確保に向けて国内の生産資源を最大限活用する生産基盤強化としての耕畜連携が、食料安全保障の観点でも不可欠であるため、国際標準での完全無人大型酪農地帯のISOBUS開発実証(国際標準のロボティクス・衛星データ)により労働時間を低減し、作業履歴データを蓄積し、営農システム(施肥、散布量等)にデータを活用する。さらに、収量を予測するとともに、生産管理を的確に行うことで、省力化・高付加価値化を行うために、気象・農業ビッグデータから収穫時期予測を行う。また、気象条件の変化に伴う生育作物の予測(100年後の既存作物の適正予測)を行うことで、長期予測データに基づいた農業経営技術を構築する。通信分野においては、本事業で扱うデータが膨大になることから、高速安全な通信とデータ保管の安全性をブロックチェーンを活用した分散ストレージシステムにて確保し、通信基盤のメッシュ化(衛星スターリンク)を行うことで、災害にも強い高速安全な通信とデータ保管の安全性を確保する。									
総合戦略の位置づけ												
基本目標1、2、4 横断的な目標2												
事業開始		事業終了										
令和5年4月		令和8年3月										
実施事業名			総事業費	交付金対象 経費	財源内訳			実施内容				
					交付金	一般財源等						
ソフト 内訳1	共助型地域交通物流システム		54,950,000	54,950,000	27,475,000	27,475,000		ドローン物流:牧場から農協への試料配送実証 3年間の共助型地域交通システムのとりまとめ				
ソフト 内訳2	国際競争拠点を形成する新たな農村エコシステムの構築		67,100,000	67,100,000	33,550,000	33,550,000		ロボトラによるカルチ(草取り)作業の実証 ポテトハーベスターの実証				
ソフト 内訳3	ブロックチェーンを活用した分散ストレージシステム		25,000,000	25,000,000	12,500,000	12,500,000		分散ストレージシステムの構築・完成				
ソフト 内訳4	通信基盤のメッシュ化及びセキュア通信		4,200,000	4,200,000	2,100,000	2,100,000		ナーブネットの拡大とスターリンクの増設				
小計(ソフト)			151,250,000	151,250,000	75,625,000	75,625,000						
ハード 内訳1	共助型地域交通物流システム		-	-	-	-						
ハード 内訳4	通信基盤のメッシュ化及びセキュア通信		-	-	-	-						
小計(ハード)			0	0	0	0						
合 計			151,250,000	151,250,000	75,625,000	75,625,000						
重要業績評価指標(KPI)			単位	事業開始前	KPI	R5	R6	R7	R8	R9	累計増加分	夢大地さらべつ推進委員会評価
1	共助型地域交通物流システム利用者の実数	%	0.00	目標値	30.00	20.00	20.00				70.00	
				実績値	872.00	1,010	544				2,426.00	
2	自動農機(無人ロボットトラクター・ドローン)の導入数	台	2	目標値	2	3	5				10	
				実績値	2	3	7				12	
3	離農者数の減少	人	0	目標値	2	1	0				3	
				実績値	3	4	1				8	
4	企業誘致の増加	社	0	目標値	1	1	1				3	
				実績値	0	1.0	1.0				2	
現況・課題			共助型地域交通:自動運転レベル4相当の実証を目指していたものの、これまで事業を実施し来たベンダーが事業休止となったことで実証については頓挫してしまった。また、ドローンでの乳牛検体の輸送実証については予定どおりレベル3.5により実施している。 スマート農業:R7年度においてもロボトラは実装に向け作業機の実証を進めており、試験圃場での稼働は順調に進んでいるが、今後は、農業者の畑での実証が課題となっている。ドローンの利活用は村内事業者が300haでの実施、各農家がそれぞれ行う様子もあり、活用が広がっている。すももの開花予測については、データ収集の精度も上がって誤差±2日となっている。今後は、すもも以外の開花予測を検討する。 分散ストレージシステム:システム構築が完了しており、3月末から4月にかけてクラウドファンディングの実施によりランニング費用等を賄う予定。 通信基盤のメッシュ化:総務省の補助事業との連動により、村内市街地にナーブネットを拡大した。									
阻害要因・分析・対応			自動運転事業におけるベンダーの事業休止については予期していなかったものの、スタートアップを活用を求められていることから予期しておかなければならなかった。また、スタートアップのみならず、会社の方針により事業継続が危ぶまれるなど官民連携の難しさを痛感しながら事業を進めている。 スマート農業においては試験圃上での実証にとどまっており、真の意味で有益なシステムに昇華しきれておらず、次年度以降の実証継続が求められる。また、ロボトラの普及には規制の撤廃が必要との声も聞かえていることから、フードバレーとか協議会において特区提案を行い公道走行の実証を提案している。あわせて、ドローンによる高規格道路上の飛行についても検討を進めている。									
今後の方針・見直し			共助型地域交通:移動における自動運転事業についてはコストがかかりすぎる点や北海道ならではの冬季の課題等もあることから「戦略的休止」とする。またドローン輸送についても、事業自体は歓迎されていたものの、マネタイズやプレイヤー不足等の問題により見合わせるを得ない。 スマート農業:次年度以降についても新たな交付金を活用した自動運転トラクターの実証を続けることとする。 分散ストレージシステム:SKBIにおいて、一般サービスとして運用を続けていく。 通信基盤のメッシュ化:ナーブネットの構築やスターリンクによるバックアップ体制は完成したことから、本通信を活かしたソフト事業の推進を実施していく。									

No	交付金対象事業名称		事業目的・概要									
2	更別村スーパービレッジ構想におけるコミュニティナースとともにつくる地方創生		現在の日本の社会は人口減少局面に入っており人口は増えないものと想定されており、このまま公助と自助だけでは補えないのは明らかである。長年村の医療を支えている村国保診療所の山田ドクターは「すでに村内の介護が大変な状況であり、公的福祉も含めてマンパワーが追いついておらず、支えられなくなる」と警鐘を鳴らしている。そこで必要になってくるのが共助の考え方であり、これまでの事業から拡大し実施するのが更別村におけるコミュニティナース事業である。具体的には、65歳以上の村民をターゲットとしていたが、多世代へのコミュニティナースの普及させるため、40歳から64歳の年齢層も対象とする。また、多世代交流が可能となるイベントや講座、ワークショップ等を通じて、多世代交流事業の確立を行い社会的つながりを広げていく。さらには、他地域からの研修を受け入れ、出身地域における課題解決への取り組みについての情報交換や、村でのコミュニティナーシングの実践に向けた検討をともに進め、村内の受け入れに係るすべての関係者が村外者との交流によって、より多くの社会的つながりが生まれることを目指し関係人口を増やしていく。									
総合戦略の位置づけ												
基本目標4												
事業開始		事業終了										
令和6年4月		令和9年3月										
実施事業名			総事業費	交付金対象経費	財源内訳			実施内容				
					交付金	一般財源等						
ソフト内訳1	多世代へのコミュニティナースの普及：調査啓発、計画準備		25,526,000	25,526,000	12,763,000	12,763,000		村民のウェルビーイングプランのヒアリング29件(うち20件の実施)、村民向けワークショップを3回開催、成人高齢者等の訪問事業にて131名の個人宅訪問及びヒアリングを実施。				
ソフト内訳2	多世代交流事業：企画検討・実証		5,760,000	5,760,000	2,880,000	2,880,000		郵便局、JICA、地元高校、その他地元企業など村内外の団体と連携したイベントを68回実施(延べ1510名の参加)				
ソフト内訳3	他地域からの研修受け入れによる関係人口の増加		1,080,000	1,080,000	540,000	540,000		道外からの視察受け入れ2件、インターン3名の受け入れ、道内外での講演3回の実施、道内外11名参加の研修会を開催				
ソフト内訳4												
小計(ソフト)			32,366,000	32,366,000	16,183,000	16,183,000						
合 計			32,366,000	32,366,000	16,183,000	16,183,000						
重要業績評価指標(KPI)			単位	事業開始前	KPI	R6	R7	R8	R9	R10	累計増加分	夢大地さらべつ推進委員会評価
1	地域の人口・世帯数	人	-13	目標値 実績値	3 2	3 4	3				9 6	
2	住民のウェルビーイングアンケートの「健康状態」の指標の増	ポイント	77.35	目標値 実績値	2.00 -12.30	2.00 1.20	2.00				6.00 -11.10	
3	商店街でのウェルビーイングプランの実現数	件	1	目標値 実績値	5 8	10 12	15				30 20	
4	村民コミュニティナースの登録者数	人	40	目標値 実績値	45 48	45 45	45				135 93	
現況・課題		村民の中にはコミュニティナーシングについて一部には理解が広がってきており、村民コミナスの増加とともに他者との繋がりにより自身のWell-Beingを向上させ、同時に他者のWell-Beingを向上させられる方が増えてきている。一方で64歳以下の村民コミナスについては広がりを欠いている。また、各種イベントへの参加も増えており、着実にコミュニティナーシングの浸透は進んできている、										
阻害要因・分析・対応		コミュニティナースの活動が高齢者の生活動線が中心となっており、連携する外部団体等も特に高齢者の暮らしを支える団体組織との連携が引き続き色濃く残っている。そのことからなかなか理解が進んでいない方も見受けられる。診療所の医師や社会福祉協議会とも連携し、現役世代へのアプローチについて検討を進めている。実証的ではあるが農協青年部や商工会青年部との関わりを増やしてきており、コミュニティナーシングの普及につなげていきたい。										
今後の方針・見直し		さらべつほーぶ等の団体とも協力することで教育機関へのアプローチも増やしており、若年層へのコミュニティナース事業への参画を促していく。関係人口の増加についてはCNCのイベントを開催することから増加することが見込まれており、村としてもイベントに協力していく方針。あわせて、次年度において事業最終年度となることからコミュニティナースの理解をさらに進めるために次年度において事業のインパクト調査を実施することとしている。また、インパクト調査の内容によっては村のインフラとなりえるのか等についても検証を進めていきたい。										

No	交付金対象事業名称		事業目的・概要										
3	村内外から人の流れをつくる交流促進事業		更別村内の若い世代を中心に、あらゆる世代の村内外の人々が『出会い』『交流』『居場所ができること』で、更別村への人の流れを創出するため、3つの取り組みを実施する。①更別村の特産品や、特色のある料理づくりやJA更別と実施する農業体験会を通じて出会いの場をつくるため、特別な人間関係の構築を行う。本事業を実施することで、日常的な付き合いや表面的な関係を越えた、深い信頼と強い絆で結ばれた関係を生む。②更別村内の既存ストックを活用し、村内で新たなことに取り組みたい人を呼び込むため、既存ストックの利用方法の転換を行い魅力的な場所や交流機会の創出する。本村の公共施設には、「農村環境改善センター」や「ふるさと館」などがある。いずれの施設も利用率は限定的で、多様な利用はなされておらず、村民に多様な使い方による魅力があることを周知できていない。本事業では、このような魅力的な場の利用率を向上するために村内外の方に公共施設を活用した民間企業による収益事業を提供することで、村内外の方に村内の公共施設の魅力を示し、本事業で実施する事業以外の事業にも活用いただき公共施設の利用率を向上させる。③先進デジタル技術を持つ企業が提供するエンターテインメントを介して観光客を呼び込み関係人口を増やすため、先進デジタル技術を用いた新しい出会いの創出と知見の深化事業を行う。										
総合戦略の位置づけ													
基本目標1、2、4 横断的な目標2													
事業開始	事業終了												
令和6年4月		令和9年3月											
実施事業名			総事業費	交付金対象 経費	財源内訳			実施内容					
ソフト 内訳1	村内外から人の流れをつくる出会いと交流事業		11,400,000	11,400,000	5,700,000		5,700,000		村内フィールドワークの開催×1回、ドローン教室×5回(教室4回、成果発表会×1回)、更別産食材を活用した商品開発×1回(商品開発、イベントのデジタル美術館の制作×1式				
ソフト 内訳2	村内外から人の流れをつくるまちづくりエンターテインメント事業		7,300,000	7,300,000	3,650,000		3,650,000						
ソフト 内訳3													
ソフト 内訳4													
小計(ソフト)			18,700,000	18,700,000	9,350,000		9,350,000						
合 計			18,700,000	18,700,000	9,350,000		9,350,000						
重要業績評価指標(KPI)			単位	事業開始前	KPI	R6	R7	R8	R9	R10	累計増加分	夢大地さらべつ推進委員会評価	
1	当事業の関係人口構築による新規移住者数	人	0	目標値	2	3	4				9		
				実績値	2	3				5			
2	更別村の宿泊観光入込数	人	9,100	目標値	10,010	11,011	12,112				33,133		
				実績値	12,817	12,164				24,981			
3	当事業による更別村の公共施設の施設予約件数	件	20	目標値	30	30	30				90		
				実績値	13	40				53			
4	交流事業への村内外からの参加者数	人	0	目標値	30	45	90				165		
				実績値	26	96				122			
現況・課題		ミチシロ力事業により大学生と関係者が42名あまりが来村し交流人口を増やしている。また、事業の成果発表のあった6つうちの1つの事業(東京の大学に更別農業高校生を招いて学祭等で更別村の農作物を販売する事業)の提案をブラッシュアップし、次年度の実現に向け各所と連携を続けることとしており、事業実現によりさらなる交流人口の拡大につなげていきたい。 また、ドローン教室の実施により村内の参加者だけではなく村外からも延べ54名参加をいただき、ここにおいても交流人口の拡大を図ることができた。 村内事業所や十勝エリアの事業所と連携した更別産食材を活用した商品開発を行い、東京ビックサイトへ出展し更別村の農作物のPRにも寄与した。 (一社)paralymartの協力のもと村内施設を活用し、更別村や村内施設の認知度向上を目的としたデジタル美術館の制作を実施した。 一方で公共施設を活用した事業実施により稼働率の向上に貢献はできているが、収益事業については確立ができておらず、村内や近隣を含めた市場規模の大きな課題もある。											
阻害要因・分析・対応		Social Knowledge Bank合同会社においても課題は認識できているが、事業を進めることに人員を割かざるをえず、マーケットの分析や新規収益事業の立ち上げ検討への人的及び金銭的余裕がないのが実態である。											
今後の方針・見直し		更別村の応援してくれる方を増やすなどの交流人口の拡大に向け、次年度が計画の最終年度になることから各事業において交流人口を作って終わりになるのではなく、本事業終了後においても関係人口として維持されるよう留意して事業を推進していきたい。また、単発のイベントにならないように収益化も含め持続可能な事業となるよう検討を進める。本事業は官民連携により進めていることから、実施事業者が複数いてもそれぞれ連携を密にして事業目的等をはっきりさせたうえで進めていきたい。 また、交流人口や関係人口に関連し国の第2住民制度等の調査検討も可能な範囲で進めていきたい。											

※事業費等の単位は円

No		交付金対象事業名称		事業目的・概要											
4		食糧自給率6800%を向上させるバイオスティミュラント試作実証事業		地球温暖化による異常気象である高温早魃の影響を受けない農産物の安定生産性向上を図る為、地元企業であるJAさらべつと『バイオスティミュラント』を研究開発している株式会社AGRI SMILEが共同で高温・低温・乾燥等の気候変動対策及び資材高騰対策に資する機能を持った『バイオスティミュラント』を3年間にわたり実証・試作を重ね開発することで市販化を目指す。											
総合戦略の位置づけ															
基本目標1、4 横断的な目標2															
事業開始		事業終了													
令和7年6月		令和10年3月													
実施事業名				総事業費		交付金対象経費		財源内訳			実施内容				
								交付金		一般財源等					
ソフト内訳1		食糧自給率6800%を向上させるバイオスティミュラント試作実証事業		21,000,000		21,000,000		10,500,000		10,500,000		スイートコーン残渣を用いた各種分析試験の実施			
ソフト内訳2															
ソフト内訳3															
ソフト内訳4															
小計(ソフト)				21,000,000		21,000,000		10,500,000		10,500,000					
合 計				21,000,000		21,000,000		10,500,000		10,500,000					
重要業績評価指標(KPI)				単位	事業開始前	KPI	R7	R8	R9	R10	R11	累計増加分	夢大地さらべつ推進委員会評価		
1		農業生産物(畑作4品)の過去15年出荷額からの増加額		千円	7,825,673	目標値	0	78,000	78,000			156,000			
						実績値	0					0			
2		高温・低温・乾燥等の気候変動対策及び資材高騰対策に資する機能を持った『バイオスティミュラント』の製造販売数量		本	0	目標値	0	2,445	4,890			7,335			
						実績値	0					0			
3		利用農家戸数		戸	0	目標値	0	20	25			45			
						実績値	0					0			
4						目標値						0			
						実績値						0			
現況・課題		スイートコーン残渣を利用したバイオスティミュラントの試作実証の結果は、有望な資材であると考えられた。													
阻害要因・分析・対応		あくまでラボ試験による結果であるため、圃場で同様の結果が得られるかは検証の必要がある。 普及を目指す中では、農家にはBSの散布よりもまず地力の向上を目指している方もいる。また、まだ普及し始めて間もない資材であることから高額な資材になっていることから、農家の方が簡単に手を出しづらいといった声も聞かれている。													
今後の方針・見直し		令和8年度においては試験圃場において実証を進めることとしている。一方で現在製品化されている高温耐性の商品よりも性能が劣るため、今後の製品の高度化も必要となってくる。また、BSの効果等を広報周知することで利用量を増やしていき、大量生産による製品のコストダウン等を目指せるよう進めていきたい。													

No		交付金対象事業名称		事業目的・概要									
5		次世代のベーシックインフラサービスVer2.0		更別村と中札内村の診療所で行われている発熱外来では、初診患者や村外からの利用者が増加し、院内での接触があるため感染リスクが高まっている。そのため、非接触による受診を望む利用者の声が高まっている。また、ひやくわくサービスにおいてデマンド交通サービスを提供しているが、運転手の確保が課題となっており、特にタクシー事業者がいない更別村において、交通サービスの利便性向上が必須となっている。IDを持つ村内外の住民や共同利用する自治体と連携し、本村で構築する都市OSIに、誰もが共同利用可能なサービスを構築する。デジタル公共財であるデジタル認証アプリによるID連携やデータ連携基盤を活用し、医療や移動、健康に必要なサービスを構築する。また、サービスの共有を行い地域間の経済交流を促進させる。このため、下記2サービス(①中札内村共同②中札内村共同)の実装によりベーシックインフラサービスの深化を行い、連携する自治体のWell-beingの向上を図るものである。									
総合戦略の位置づけ													
基本目標4													
事業開始		事業終了											
令和7年4月		令和10年3月											
実施事業名				総事業費		交付金対象経費		財源内訳		実施内容			
								交付金		一般財源等			
ソフト内訳1	医療AI音声デジタル問診サービス			62,500,000		62,500,000		55,000,000		27,500,000		AI音声を活用した問診機能を拡張しスマホ等からも対応可能なシステムを構築	
ソフト内訳2	カーシェアマッチングサービス			20,000,000		20,000,000						カーシェアサービスにより移動手段を確保できるようにシステムを構築	
ソフト内訳3													
ソフト内訳4													
小計(ソフト)				82,500,000		82,500,000		55,000,000		27,500,000			
合 計				82,500,000		82,500,000		55,000,000		27,500,000			
重要業績評価指標(KPI)				単位	事業開始前	KPI	R7	R8	R9	R10	R11	累計増加分	夢大地さらべつ推進委員会評価
1	ID登録者数	人	0	目標値	650	100	100			850			
				実績値	1,766					1,766			
2	デジタル生活の満足度	偏差値	0	目標値	52.5	2.5	2.5			57.5			
				実績値	50.3					50.3			
3	受診総数に対するデジタル問診サービスの利用割合	%	0	目標値	15	5	5			25			
				実績値	未計測					0			
4	デジタル問診票の満足度	ポイント	0	目標値	3.0	0.2	0.3			3.5			
				実績値	未計測					0.0			
5	カーシェアマッチング利用者数	人	0	目標値	200	100	100			400			
				実績値	14					14			
6	カーシェアマッチング利用満足度	ポイント	0	目標値	3.0	0.2	0.2			3.4			
				実績値	3.86					3.9			
現況・課題		医療AI音声デジタル問診サービス：システムは完成しているものの、現場オペレーションの構築が完了していないことからサービスは未実装 カーシェアマッチングサービス：システムは年度末に完成。予定よりも完成が年度末にずれ込んだことで、普及については進んでいない。											
阻害要因・分析・対応		医療AI音声デジタル問診サービス：医師や事務、看護師の意思統一がなされておらず、サービス構築に至らなかった。そのため、プロパー職員を1名増員することで現場オペレーションを構築し、10月のサービス実装を目指していく。また、AIにおいて音声認識されずらい方もおり、対応に苦慮しているものの、AI技術の進歩は日進月歩であり、多くの住民の声に反応できるように期待している。 カーシェアマッチングサービス：広報等を実施していくことで利用者を増やしていきたい。また実装から年度内のマッチング率が約70%であり、利用したいニーズを広い切れていないことから、まずはサービス提供者を含め登録者の増加に向けて進めていきたい。											
今後の方針・見直し		医療AI音声デジタル問診サービス：10月のサービス実装に向けて、関係各所との調整を続けるとともに、広報周知により利用者を増やしていく。 カーシェアマッチングサービス：すでに作成しているチラシや動画などの素材を用いて広報・周知を実施することにより、登録者や利用者を増やしていく。											